

令和9年産 麦類技術情報 第1号

宮城県美里農業改良普及センター 令和8年10月 日発行
Tel 0229-32-3115 Fax 0229-32-2225
URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

普及センターHP

麦類技術情報



令和9年産麦類栽培に向けて

(1)排水対策 麦類は湿害を受けやすい作物です。

湿害になると・・・

播種直後:発芽不良や不揃い、
生育期間:根の伸長抑制、分げつの減少、葉の黄化、
節間伸長期～出穂期:穂数の減少、
出穂期以降:粒の充実不良による収量・品質の低下
など生育に様々な悪影響があります。

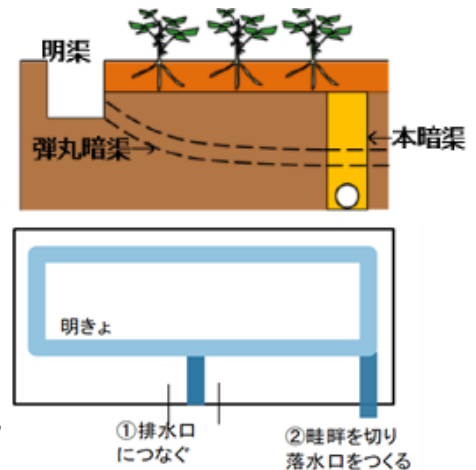


図1 明きょ施工のイメージ図
(上)深く掘り弾丸暗渠に接続
(下)排水路の確保

◎地表排水…額縁明きょ、ほ場明きょ

明きょは深さ20～30cmで施工し、確実に排水溝につなぎましょう。
また、排水の悪いほ場は、ほ場内部にも明きょを施工しましょう。

◎地下排水…本暗きょ、補助暗きょ(弾丸暗きょ)

本暗きょと直交または斜交するように、地表から40cm、2～3m間隔で弾丸施工しましょう。

(2)土づくり

畑地では土壤中の有機物分解が早まるため、地力の減耗、団粒構造などの土壌物理性が低下しやすくなります。

◎有機物施用は計画的に

施用量の目安:稲わら主体の堆肥は2t/10a、牛ふん堆肥(窒素含有率1%)は1t/10a、
豚ふん堆肥(窒素含有率2%)は500kg/10a

◎ほ場のpHを確認しましょう

目安:大麦ではpH 6.1～7.0、小麦ではpH 5.6～6.5

*転換畑は、一般的にpH 5.0～5.5で目安より低い傾向にあります。

低pHだと根の伸長が阻害されて生育不良となるので、苦土石灰等の石灰質資材により土壌酸度を矯正しましょう。

◎耕起・整地

- ・発芽率や除草効果の向上のため、碎土率を確保しましょう。
目安:碎土率(直径2cm以下の小土塊の割合)が70%以上
*ただし、強粘土では、碎土が降雨などでしまり、通気性や透水性がかえって損なわれる場合があります。土質に応じて管理しましょう。
- ・赤かび病は、ほ場残渣が次作の発病源となります。
連作はできるだけ避けるとともに、連作する場合には地上に残渣を残さず、丁寧にすき込んでください。



図2 碎土率75%の土

~~~麦作ではpHが重要です~~~

連作ほ場を中心に酸性障害が多く見られています。

症状(3月ころから):下葉の黄化、分けつの抑制、根の伸長抑制

対策は以下のとおりです。

- ① 作付け前の石灰質資材
- ② 堆肥など土づくり資材の投入
- ③ 水田作との輪作

追肥をしても生育が改善しないときは、酸性障害の可能性もあるかも…



図3 pH5.0前後の小麦ほ場での酸性障害

普及センターで土壌分析を行っています

pHや塩基バランスを測定できますので、生育が悪かったほ場は一度分析をご検討ください。

(3)施肥

表1 標準施肥体系

施用時期		10月上～中旬 基肥	2月上～中旬 株直し追肥	3月中～4月上旬 幼穂形成期追肥	4月中～下旬 減数分裂期追肥	5月上～中旬 穂揃期追肥
栽培品種	肥料形態		<幼穂形成前> 【葉色の維持】	<幼穂長2～3mm> 【穂数増加】	小麦<幼穂長2～5cm> 大麦<幼穂長2～3cm> 【一穂粒数増加】	<80～90%が出穂> 【千粒重, タンパク含量向上】
シラネ コムギ	窒素成分量	7～9kg/10a	基本的に不要 必要に応じて 窒素成分 1kg/10a	2.5kg/10a	5kg/10a	2.5kg/10a
	肥料現物量	40～50kg/10a (尿素・過リン酸石灰777号)		5.5kg/10a(尿素)	11kg/10a(尿素)	5.5kg/10a(尿素)
				12kg/10a(硫酸)	24kg/10a(硫酸)	12kg/10a(硫酸)
夏黄金	窒素成分量	8～10kg/10a		2.5kg/10a	5kg/10a	5kg/10a
	肥料現物量	50～60kg/10a (尿素・過リン酸石灰777号)		5.5kg/10a(尿素)	11kg/10a(尿素)	11kg/10a(尿素)
				12kg/10a(硫酸)	24kg/10a(硫酸)	24kg/10a(硫酸)
ホワイト ファイバー	窒素成分量	8～10kg/10a		2.5kg/10a	2.5kg/10a (5kg/10a)	—
	肥料現物量	50～60kg/10a (尿素・過リン酸石灰777号)		5.5kg/10a(尿素)	5.5kg/10a(尿素)	—
				12kg/10a(硫酸)	12kg/10a(硫酸)	—

※ 資材選択は例。

※ ホワイトファイバーの減数分裂期追肥では、葉色が41未満(SPAD値)の場合は5kg/10aを追肥する。

◎基肥

- ・表1の施用量を目安とします。麦は低温期に生育が停滞するので、基肥窒素の利用率は低いです。そのため、基肥を増量しても生育量は増加しません。播種が遅れた場合でも基準量を施用しましょう。
- ・稲わらすき込み後の作付けの場合は、稲わらの分解に窒素が使われるため、窒素成分を10～20%増やしましょう。

(4)播種

平年通りの気温であれば、北部平坦地域の麦類の播種適期は10月中旬頃です。近年は暖冬のため延伸する傾向にはありますが、遅くなり過ぎないようにしましょう。大豆後の麦は11月下旬までに播種を行いましょう。

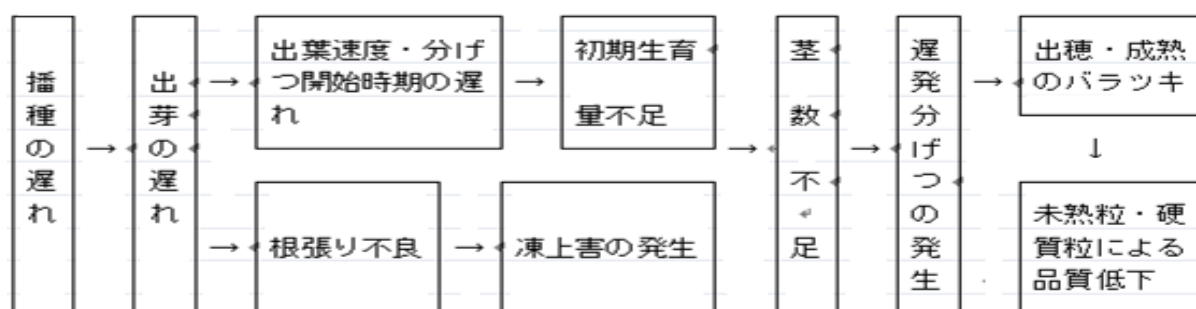


図4 播種の遅れによる弊害

◎播種量：播種粒数で250粒/㎡ ※播種条件で変動します！

- ・目標収量 500kg/10a の場合、標準の播種時期で、播種粒数は 250 粒/㎡程度が目安です。
(成熟期穂数 500 本/㎡ とすると、出芽本数が 200 本/㎡必要)

ドリルシーダーで 250 粒/㎡播種する場合、
条間 30cm では 75 粒/m、20cm では 50 粒/m
となります。

- ・実際の播種量は、品種・千粒重によって異なります。
表2を参考にしてください。

- ・播種が早い場合は播種量を減らし、遅れた場合は増やして対応しましょう。

※ただし大麦は 12kg/10a、小麦は 15kg/10a まで

表2 播種量の目安(標準播種期の場合)

	千粒重 (g)	播種量(kg/10a)	
		250 粒/㎡	200 粒/㎡
シラネコムギ 夏黄金	42	10.5	8.4
	40	10.0	8.0
	38	9.5	7.6
	35	8.8	7.0
ホワイト ファイバー	38	9.5	7.6
	35	8.8	7.0
	32	8.0	6.4

◎播種深度：3cm 程度

- ・浅いと除草剤や凍霜害、乾燥の影響が大きくなります。
- ・深いと苗立率が低下するほか、二段根が発生しやすくなります。二段根では、根量の増加や分げつが抑制され、生育が悪くなります。



図5 左:正常 右:二段根 の小麦の根

(5)雑草対策 播種直後の土壌処理剤が基本、生育期に雑草が発生する場合は茎葉処理剤

土壌処理剤の効果を高めるには、碎土率の確保、ほ場が湿った状態で散布することが効果的です。土壌が極端に乾燥していると土壌処理剤の効果が劣るので、登録の範囲内で希釈水量を多めに散布します。

播種後は気温が低く、雑草が目立たない場合がありますが、特にイネ科の雑草の多くは茎葉処理剤の効果が低いため、発生ほ場では必ず土壌処理剤を施用しましょう。

(6)麦踏み(踏圧)

◎効果：図6を参照

- ・乾燥、強風、暖冬時に効果が高く、小麦より大麦、地力の低いほ場より高いほ場で効果が高まります。
- ・過湿条件や重粘土では逆効果の場合もあります。

◎作業時期と回数

- ・麦踏みの時期は、離乳期(3～4 葉期)から茎立ち前までです。
(主稈長 2cm 程度から幼穂長 2mm 程度)。
- ・越冬前(凍結層ができる前)に 1 回、越冬後に 1～2 回が基本です。遅播きや過湿ほ場では回数を少なく、早播きほ場や暖冬年は回数を多くしましょう。
- ・「夏黄金」は、遅れ穂発生を抑制するため、特に麦踏みが重要です。

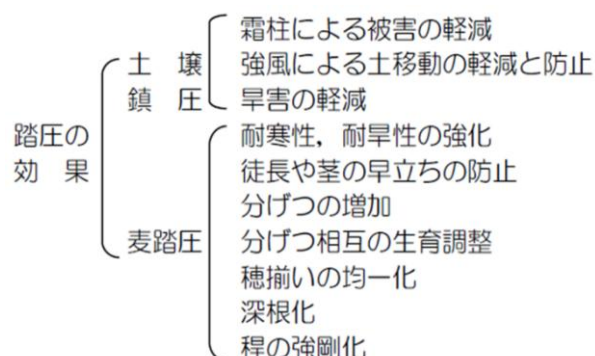


図6 踏圧の効果

冬期の鳥の食害後は・・・

食害時に株が引っ張られて根が浮き上がり、凍霜害の影響が出やすくなるので、早期に麦踏みを行いましょう。また、茎数回復のため株直し追肥が有効です。

堆肥早春散布について

◎水稻、大豆後作などで麦作付け前に堆肥散布を行わなかったほ場では、越冬後(3葉期)～幼穂形成期前まで、麦上から堆肥散布することができます。



詳しくはこちら↑
美里普及センターHP
堆肥早春散布パンフレット

ポイント

- ① 散布期間は麦3葉期～茎立ちまで(2月～3月中旬ころ)
- ② 散布はマニュアルスプレッダーで、ほ場が乾いているときに。
- ③ 牛ふんたい肥1～2t/10a を目安に
※地力・成分に応じて加減

- ・土づくり効果が認められ、増収した事例があります。
- ・ほ場によっては、土壌の保水性・排水性が向上しました。
- ・牛ふんたい肥施用後も、越冬後の追肥は慣行通り行ってください。

